

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 7 日

所属	政策情報学部	職名	准教授	氏 名	大久保優也
研究課題	コモン・ローにおける「法の支配」と「社会」の位置を巡る研究				
研究キーワード	憲法 コモン・ロー 自由主義 革新主義 パウンド ハイエク アメリカ法	当年度計画に対する達成度		3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	1. 貧困をなくそう	3. すべての人に健康と福祉を	10. 人や国の不平等をなくそう	16. 平和と公正をすべての人に	

1. 研究成果の概要

まず、検討課題のうち、コモン・ローにおける「法の支配」の伝統学説の形成過程や、コモン・ローにおける「法の支配」の実態の検討について研究を進めた。これについては、法制史研究を踏まえながら、ある程度、検討を進めることができた。この点については、本年度に公開された、大久保優也『統治の法としての憲法』（日本評論社 2024）においてその一端が示されている。

また、コモン・ローにおける「法の支配」のあり方に対する批判的立場、具体的には、社会問題への対応や、行政国家を重視する立場からの批判について、主要論者の主張内容や、それについての先行研究を踏まえた、その内実の検討についてある程度進んだが、論文としての公開までには至らなかった。

1990 年代以降の日本の諸改革において唱えられた「法の支配」の内容についての検討に関して、司法改革や行政改革を学術的立場から主導した憲法学者らの「法の支配」の概念の内容やその理論的基礎についてはある程度検討できたが、その成果について、論文としての公開までには至らなかった。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし

【著書・論文（査読なし）】

大久保優也『統治の法としての憲法』（日本評論社 2024）

【学会発表等】

なし

3. 主な経費

本研究の目的のためには、学際的な研究が必要となったため、憲法学、行政法学、行政学、法制史、社会学、さらには、歴史学に関する歴史的文献、原典や、関連する先行研究、その他、同時代の社会科学の隣接分野について多岐にわたる関連書籍の購入、文具代金、プリンター関連費用に使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

なし

（本文は2ページ以内にまとめること）